

松 菅公一 小野 灘廻り 竹原 武蔵野 石
川 物狂 松木 川中島 大石 小督の局 一
川口 芳山 川村 静御前 田端 敦盛塚 一
小林 似我 染谷 鶴泉 三方原 三上 鶴浄
小教盛 伊藤 鶴麗 由井 正雪 小野 ひろみ
蟬丸 柿沢 望峰 弁の内侍 会主 小野 鶴彦
桶狭間 橋谷 岳陽 吉野 落 家元 山本 鶴声。

名流琵琶演奏大会

六月四日(金)東京大手町農協ホール、主催
日本琵琶楽協会(千五百円)。東西一流琵琶
入達の競演で盛會を極めた(一曲十四分以内)
吉野 落 村上 旭東 扇の的 大場 穂花 北の
庄 藤巻 旭鶴 巖流 島 秋山 錦賜 柳の精 一
中島 旭穂 吹雪の敵 最上 穂洲 小野 訓導 一
前田 洲月 小栗 栖 押川 旭葉 白虎 隊 一 柏木
篤道 戦艦 大和 楊嶽 水 関ヶ原 横野 旭風
城山 一 松本 岳邦 須磨の教 盛 小沢 錦弥 羅
生門 一 林田 旭城 平将門 伊集院 牙城 耳な
し 芳一 一 木原 綾子 舟弁 慶 一 中谷 裏水 粟津
ヶ原 一 山崎 旭萃 形見の桜 一 鈴木 鶴岡 琵琶
塚 一 鈴木 流泉 四条 暇 一 柴田 旭堂 旅順 開城
一 栗原 雨竹 時雨 曾我 一 藤波 桜華 修善寺 物
語 一 杉山 旗水。

京都琵琶協会六月定例茶話会

六月五日(土)昼一時本部平井春嶺氏宅。伊吹
戸會、戸田、田中、若宮、安住、矢吹、牧、
平井、植村各会員出席。二、三会員研修演奏
のあとテープ録音やレコードによる平曲並び
に故名人らの演奏を鑑賞し又明日の演奏会、
七月二十三日恒例祇園祭八坂神社奉納演奏会
の打合せなどをし夕食を共にして散會した。

故河口旭湖師追善演奏会
戦前百人の弟子を擁し京都筑前琵琶の名手

として知られた故師の十三回忌を迎え現在唯
一人の門人荒木旭媛女史は師の徳を偲びその
追善演奏会を、京都琵琶協会の全面後援で六
月六日(日)正午京都東山の妙妙寺本堂で開催さ
れた。入梅の霖雨も当日は晴れすがすがし
い演奏会日和となり、まづ関係者打揃って仏
前に正座、導師の読経中に一同焼香し故師の
冥福を祈って後開演、終始満員の盛況を呈し
一、二事故者を除いて全十四曲を演奏し五時
終演、記念撮影の後乾盃開會した。小栗 栖 一
田中 旭城、鉢の木 一 会主 荒木 旭媛、秋風 故郷
山 一 戸倉 旭嶺、川中島 一 阪本 一 峰、別れの盃
一 安住 旭康、時は今也 一 平井 春嶺、本能寺 一
牧 南水、大徳寺 一 戸田 旭公、教盛 一 木下 皇水
柳の精 一 若宮 旭登、寂光院 一 植村 裏水、田村
邸 一 田中 鵬水、矢吹 旭美津、河内の宿 一 馬場
鴨水、由比 夕浜 一 梅原 旭瀟。(順不同)

ラヂオ琵琶放送

○六月七日(月)晚八時NHK第一、お好み邦楽
選、山崎 旭萃女史「安宅」。
○六月十一日(木)夕五時NHK、FM 石坂 鶴
朋、友吉 鶴心、内山 鶴崇「義経」。

(転居) 小沢 錦弥氏 八王寺市散田東町一三
七六ノ四七 に転居。

(改号) 野崎 暉水氏(一水会新潟支部)
野崎 星水 と改号

半田 錦崇氏 四月二日老衰のため逝去、
享年八十。大正二年永田 錦心師に入門、
総伝。昭和三十三年一水流宗家となり仙
台市に於て琵琶楽の興隆と改革に力めた
功労者。謹んで御冥福を祈る。

(予 告)
○京都琵琶協会七月定例茶話会 七月三日
(土)昼一時、会員矢吹旭美津女史宅。
○鈴木流泉氏ラヂオ放送 七月八日(木)夕五
時NHK、FM「名月逢坂山」。
○山崎旭萃を聴く会 七月十三日(火)昼大阪
四ツ橋厚生年金会館、主催民音。
○祇園祭協賛京都八坂神社奉納演奏会 七
月二十三日(金)夕五時、京都琵琶協会主催。

あ 降りみ降らずみの鬱陶しい長雨で
きと 兎角気が滅入り琵琶楽器のお守りも
大変である。女性の方は頭髪に湿気
が含み易く整髪に苦労される様子、
梅雨明けが待たれる春からの好季節で各地
の活躍も仲々盛んであったようだが、
と仲休みの状態であつたようだが、
が取戻されよう琵琶楽の発展については年
輩者の多い琵琶人の現在、口先ばかり達者
で一向に行動が伴わない、緊押一番、大いに
若返って真剣にこの問題に取組んで欲しいも
のである●琵琶発展の急務についてこのほど
一琵琶人から①若い男女のお弟子さんの養成
②若い人向きの時流に即した短かい歌詞の新
作、③安価な楽器の開発、④公開演奏会の頻
繁開催、などの提案が京絃社に寄せられた●
結構な御意見で先生方の一考を煩わし、
京絃八月号は例年の通り書中交礼号として同
好者間の健康を喜び合いたい、精々沢山の
お申込みをお待ちする。

昭和五十一年七月一日発行(非売品)
編集者 植村 稟 水
発行所 京 絃 社
〒569 高槻市津之江北町一ノ二二三
電話 〇七二六(八五六一〇五一番)

琵琶 機関紙

京

経

第二六五号 京 絃 社

薩摩琵琶とその周辺 (五)

奥羽同盟軍の降伏 輪王寺法親王とは 台湾入
の北白川宮 西郷は東北諸藩の方向を誤らしむ



西南の役も終結して、茲でまた十年前の奥
羽辰辰戦争に触れたいが、紙面スペースの関
係で深入りも出来ず、途中より若干述べさせ
てもらう。

慶応四年五月三日奥羽列藩は仙台に会合、
あの上野戦争より脱出して米沢に於て輪王
寺法親王を擁立し、尊王の旌旗(賜天子の意)
を掲げ、薩長土肥を主力とする君側の奸を討
つべく奥羽二十五藩を新発田、長岡、越後の
六藩を加えて奥羽越列藩同盟が成立した、古
事にとれば南北朝の再現を見る向きもある
が、その当時列藩の発想はそうでもなく、
後日史家の目に映ずる実体が斯く観るのであ
らう。

茲で輪王寺法親王とは一体如何なる人であ
るか、池辺義象作「彰義隊」の中に出て来る
「御痛むしや宮殿下には、雷雨に小ぐらき
木蔭をば、行方も知れず落ち給う」
の宮殿下がこの主人公である、宮は伏見宮邦
家親王の第九子に生れ仁孝天皇の養子となら

東京 坂本 錦道
れていたが、十三才の折東觀山寛永寺に入る。
少年期は御経などはそっちのけで、寺の小坊
主共を集め剣術の稽古ばかりしていたといふ。
慶応三年輪王寺宮第十三世となり、同時に東
叡山寛永寺門主第十五世を襲位、翌四年御
年二十二才の時に至って上野彰義隊の変、こ
の当時の模様は前述の池辺先生の作詞によつ
ておわかりの事と思う。

さて三十数藩に及ぶ奥羽越列藩同盟軍は、
形ちの上では優勢を示したものの、最初に降
伏謝罪書を出したのは秋田藩で、藩論は真二
つに分かれた、め歩調不能となった。続いて
仙台、米沢の降伏と、最後に郡山東五里程に
ある三春藩が突如として寝返りを打ち北上軍
と合流したことは、戦況をして敗色を決定的
のものとし、九月二十二日会津藩、続いて莊
内藩の降伏を最後に東北地方は平定される。
ところで輪王寺宮はどうなったか、若年に
して担ぎ上げられた事もあれど、事態がく
る上は四條隆詩総督の手許で謝罪書を提出し、

朝廷にお詫のため十月東京に向つたが、十一
月三日一行が千住に到着するや大総督府の命
令で入京を差し止められた。その理由は「宮
は大義を誤りたるため、京都の実家伏見宮家
にお預け謹慎せらるべし」で、宮は実家に帰
ってひたすら謹慎、復帰と共に能久親王と改
められ、間もなく北白川宮家を継いだ。明治
五年に兵学研究のためドイツに留学し、帰朝
後は奥方(富子)を島津家より迎え数人の子
供さんも出来た。ところが明治二十八年御年
四十九才、近衛師団長に補せられた折も折、
日清戦争で新しく日本の属国となった台湾の
反乱に、その征討軍として近衛師団の動員と
なる。

この動員下令を受けた宮の感激は大変なも
ので、曾って若年の頃奥羽戦争で一身の方向
を誤ったその罪を悔はしとばかり勇躍戦場に
赴くが、猛暑悪疫の烈しき異郷に奮戦し所期
の目的を達し乍ら悲しい哉、遂に病に冒され
幽明とを異にされた。この辺りが西村天
囚作「台湾入」で、宮の死に對し、國中の民
も兵も慟哭せぬはなかりけり、我々琵琶
人にとつてなじみ深い愛好の曲である。

宮の御一生を眺めると、少年期より数奇な
運命に翻弄され、一言にして悲劇の宮として
の宿命は何とも痛々しい限りである。昭和三十
十年と思うが故宮の六十年祭施行に當つて小
田原国尊師(私の師)は聘せられて、各皇族
顯官並に関係者列席の前でこの名曲「台湾入」
全曲を精魂こめて演奏され並居る方々の涙を



わが道を行

六十五年(三九)

西郷 天 風

さそつた。後で私は師の奥さんから聞いた話であるが、小田原先生はこの弾奏に全心全霊を打ちこみ、弾奏を終えて翌日より二日程床の中から出られなかつたと話されていたが、全エネルギーを燃焼せしめその奔出する豪壮と悲哀、名人も斯くやありなんと思う。

小田原先生と「台湾入」について今一つエピソードがある。先生が郷里中学を卒業して鹿児島専売局より台湾の専売局に転勤の折(大正初期)休暇を利用して当時の名人飯牟礼寿長師と同道にて台湾各地で演奏会をやつたが、師の最も得意とする「台湾入」一本にて押し通し絶讃を博したこともあり、更に故宮の六十年祭にも再び同曲演奏の光栄に浴したのも何かの因縁と云うのかも知れない。

平容保の如き人物もいたが之は幕閣に列し、藩は京都守護に進出して国事に奔走、国元は俸に委せ放して藩主は常に留守がち、そんな事も会津の徳川寄りは止むなきと想われる。明治十年西南の役の終つた時かの慶応義塾時事新報の創立者である福沢諭吉先生は「明治十年丁丑公論」と云う小冊子を刊行し、完膚なき西郷批判を論述している中に「その食祿を奪い兄弟妻子を離せしめて其流浪饑寒を顧みず、数万の幕臣は静岡に、溝瀆に縊る者あり、東京に路傍にて乞食する者あり、家屋敷は召上げられ(中略)東北の諸藩の方向を誤らしめ、主従の難苦も亦云うに忍びず」云々。

とある、惟うに官軍の主導権を握る西郷が奥羽諸藩をソソボ座敷に押込め、徒らにその方向を誤らせた事に對し福沢先生は慨していられる。若しあの当時情報が懇切に行われていたならば、あんな大きな東北戊辰戦争もなく、又白虎隊のような春秋に富む少年達を屠腹させずにすんだかも知れない。(以下次号)(訂正)「前号三段六行目「四月二十八日」は「四月十日」の誤記につき訂正。

言 (31)

巴御前 美人の勇将で木曾義仲の愛人、義仲が栗津ケ原で戦死後は尼となって越後友松に隠れた。巴御前に仕えていた女房が遺品を埋めた巴塚が京都府船井郡の八木駅からバスで十五分の如城寺にある。

に描くことが出来る程印象が深かつた。

さて、この沼津でも宿舎は館主の家だつた。そこは割烹旅館の表二階で大広間を仕切つた一室を与えられたが、芸妓屋も兼営してある關係で、三日目頃から三人の振袖姿もあてやかな半玉が遊びに来るようになり、菓子などを用意して歓迎すれば鬨扇興やお手玉などに興じおる無邪氣な風情は、まことに優雅な雰囲気をかもし、町内見物よりもこの三人のスケッチをする方が楽しかつた。

この沼津の日活館も二週間で打ち切り帰京したのが十月の初めだつた。この前後五週間の不在中、東京の各映画館では琵琶劇熱がいよいよ昂まり、私を待っていたのは、青山の松竹館をはじめ国活系の四谷館と渋谷館で、私は急に慌だしい環境に飛込んだ感じだつた。

当時、琵琶劇上映の際出演の約束を結んでいたのは前記の外に東銀座の豊多摩館、早稲田の日活館或は本所の大平館等だつたが、大平館では暮から正月にかけての二週間は琵琶劇映画大会に四名の琵琶名手競演と云う豪華版で新春を飾り、続いて次の二週間は琵琶劇を以て顧客に報ゆることとなり、私が残されたのは少々迷惑乍ら館主の懇望もだし難く引受けたもの、青山の松竹館と掛持の二週間は往復の円タク代と日当とが差引きフイになる上、クタクタもよいところと云う訳で後の一週間は代演者に任せることにした。

何れにしても絵画研修に懸命の私にとつて映画館の存在は絶好の職場であつた、それは

毎週土曜と日曜を除いた五日間は、夜間の四十分前後が勤務で、それ迄は朝から終日面の勉強に専念する事が出来るばかりでなく、其報酬が一般日当の十倍ともいわれ、土曜と日曜等休日には昼夜興業による大入や、そば代と称する二重の延喜配当が付き、月間の収入は大巨額とまでいわれる豊かさであつた。

ところが、その頃松竹キネマが先鞭をつけ東京市内の松竹系映画館全部を昼夜二回興業に改め、為めに国活も日活も之に習って全映画館が昼夜興業となつてしまつた。私にとつて之程大きな打撃はなかつた、画を勉強する時間が無いことになるからで、止むなく地方の映画館を頼ることになり、その手始めが浜松の松竹館で此の時の三週間は地方出張の楽しさをしみじみ味わうことが出来た。次いで熊谷の熊盛座だつたが、そこは映画館ならぬ劇場であれば客席も多く、従つて大入はあつても満員とまではゆかず、大入袋など一度も出なかつた、その上泊る所も楽屋の一隅で、ガラんとした部屋に一人寝は心地のよいものではなかつた。

そこで思い付いたのが、琵琶師待遇の基準を定めることで、私の場合旅費旅館は二等待遇、日当は十円とし、各映画会社承認の下に囑託の名目を得たのだつた。因に、明治大正時代の鉄道には庶民向の三等車が旅客列車の九割を占め、知名人士向きの二等車が二両が二輛、一等連結の列車は甚だ稀だつた。

さて映画琵琶師に対する所遇問題は兎も角琵琶劇映画の地方上映は中々困難だつた。それは肝心の琵琶師が不足がちで、東京市内ですら一人で二館或は三館掛持ちとなる有様だつた、私も銀座の豊多摩館や早稲田日活館、鳴子の富士館、さては国活の四谷館、渋谷館等に追われつゝあつたが、暮も押つまつた三十日に待望の雪国へ出張することが出来た。秋田の朝日館が新しく松竹キネマ専属として大晦日から発足することになつたので、例により琵琶劇映画「地獄船」の上映となり、私がそのフィルムを携えて行けば郵便局通りの沖之口旅館に案内された、紛れもない二等旅館ではあつたが大層の部屋にコタツ布団もなまめかしく、暖をとる為ビールの栓をぬけばビールはミソレの如くカキ氷の如くで、カップに注ぐにはお燗をするしかなかつた。

来たる八月一日発行の本紙は例年の通り夏季特別号とし紙数を増して内容豊富の記事を満載、併せて暑中交礼号として貴名を掲載させて頂きたいと存じます。

夏季特別号発行について

遠隔地同好者間の旧交を温ため、且つは京紘援助の思召しをも含めて多数御協賛下されたく、別紙申込用紙に料金を添え七月十日迄に御申込み願います。

熊本城の威容を訪ねて

辻 旭城



国鉄山陽線を一路、関門海峡を西へ……。雨は降る降る人馬は濡れる、越すに越されぬ田原坂、山に屍川に血流る、肥後の天地秋淋し……。琵琶「秋風故郷の山」にうたわれ田原坂を私は一氣に駆け登り、そのまゝ熊本に滑り込んだ。

京紘ご愛読の先生方には御承知の通り、熊本は俗に森の都と呼ばれている、事実、市の北にある花岡山公園の山頂から眺めた街は、中央の名城を中心に到る所緑の木立が見られ街は明かるい緑で鮮やかに彩られていた。明治の始め西郷隆盛に率いられた薩摩軍が、この花岡山から熊本城目掛けて旧式大砲を撃ったが、弾丸が届かなかったという話を熊別荘旅館で聞いたが、これも熊本観光の一エピソードとなっている。

花岡山の仏舎利塔の下方には、細川公の別邸が北岡自然公園として市で管理されているが、こゝには有名な肥後椿の木が植えられ、記者が訪れた時には優雅な花が咲いていた。熊本市には公園が多い。旧第五高等学校の裏手には立田自然公園がある。こゝには細川忠興、ガラシヤ夫妻の墓がある。数百年の歴史を伝える落ちついた公園の一隅に、祈りと貞淑で質き若くして散ったガラシヤ夫人に想を馳せるとき、幽幻とでも形容したい感で、訪れる者をしばしロマンの世界に導く。又公園内の池のそばには、忠興建立の茶室仰松軒が手入れよく保存され、今尚古流茶道愛好者の間に利用されているという。

日本三大名城の一つ熊本城は、城作りの名人加藤清正の手になるもので、後天主閣も再建され城としての威容を回復しているが、当時の絢爛たる大築城技術の粋は、芸術品ともいえる美事を石垣など、重要文化財に指定されている。西南戦争が起るまでの戦史を考えつゝ本題に入ることゝしよう。

明治政府成立通告の国書を韓国が突き返したことから、西郷らが強硬に征韓論を主張したが、岩倉具視や大久保利道、木戸孝允らが之に反対して勅許を得たため、西郷を始め江藤新平、板垣退助、後藤象二郎、副島種臣の五参議は、明治六年(一八七三)十月下野した。そして翌七年二月、江藤新平は郷党五千人に担がれて佐賀県庁を襲ったが敗退、江藤は辛うじて鹿児島に逃れ西郷の決起を求めたが、拒否されて高知で捕われ斬罪された。続いて明治九年十月、征韓論者で旧秋月藩宮崎車之助ら約百五十人が神風連と呼応して戦ったが、街の電線の下を通る時にはチョンマゲを扇子で覆ったというほど、異国風反対の超国粹主義団体で、敬神党の百八十人が弓矢、槍、刀に鐵武者姿で押寄せた事件で、神風連

は一日で全滅。同月前参議前原一誠ら五百余人が、山口県萩市政府を襲撃したが失敗して前原らは斬られた。こうした事件のあと西南戦争が勃発するのであるが、これは西郷の意志ではなかった。その史論の根拠は当時の政治的背景を探るよりも、西郷が鹿児島に自宅を出た十七日朝のこと(先遣隊は十四日出発)、熊本に行く迎えの者に「おはんだったか、おいどんをつれいっちよるの、くちよはかせつくれ」と云った言葉でよく感じ取れる。この日鹿児島は五十年振りの大雪だったと伝えられる。

征韓論に破れて帰郷した西郷に、桐野利秋、篠原国幹、別府晋介、池上四郎、逸見十郎太等の近衛将校や文官畑の村田新八ら多数が従った。隆盛は子弟教育の私学校を建てたが、それがいつの間にか私設軍隊化し、県令大山綱良が西郷の大ファンであったことも、悲劇を急テンポに早める結果となった。

一方熊本城内では司令官谷干城少将以下三千三百六十人、その中には警視庁警官隊千人も含まれているが、参謀長榊山資紀中佐ら将校の殆どは鹿児島、宮崎県出身の士族であった。この戦いに官軍は連発可能な元込め銃を使っているのに、西郷軍の多くは銃口から火薬と弾丸を差込む先込め銃で、一発撃つ間に官軍は十発も撃つという有様で、頼みの四斤砲も城に届かず仕舞で遂に敗走して田原坂での激戦となり、孤軍奮闘破圍退、一百里程壁間、我劍既折我馬斃、秋風埋骨故郷山で遂

に城山の露と消えたのである。

名城を訪れる観光客は年間二百万、国指定の特別史跡だけに制服の厳めしい守衛さんが終日見廻っている。復元の熊本城の天守閣昔の姿残す石垣。熊本城見物は駐車場前から入るよりも、一番下から石垣を登りながら眺めるのが最高で、城の全容が見られる。

「さらば春」



春も日暮れか 弥生も末か
明日のゆくえを
風に問うてもせんないことと
行く春を池のほとりでおくりつつ
しみじみあたりをながめれば
落花は舞って水に散る
ああ 旅なるか 人の世は
左右の足を交互に踏んで
歩き歩いてどんな道をえらんでも
やがてははてるのちかな
人間同志のあらそいや天の災いはさけえても
しのびよる老のかげりはさけられぬ
晩春薄暮の感傷と笑わば笑え
南の池畔の木によりて
春をみおくる今日の心は
親兄弟や旧友と別れるようにせつないものよ

「送春」訳より

白楽天。名は白居易。字は楽天。
他に、香山居士、醉吟先生と称す。
七七年河南省に生まれ、十五、六ごろに優秀な詩をつくっている。大衆詩人、国民詩人のタイプ。代表作は「長恨歌」(五・一七・鴨水記)

旭濤会の

筑前琵琶温習会



お弟子さんを主体とする温習会が五月二十三日(日)東京都東山の安井金比羅宮会館に於て三ツ和会その他の協賛で開催された。梅雨前線の雨も洩奏中は中休みの状態で満員の盛況長足の進歩を示すお弟子さん達の出来ばえて梅原会長さんも御機嫌であった。六時全演奏を終り記念撮影、乾盃の後閉会。太田道灌一士肥、本能寺一中谷、金州城一河野、敦盛一渡辺旭寿、安宅一清水旭翠、衣川一岡本旭村五條橋一相良旭蟬、小栗栖一国友旭香、堅田落一会主梅原旭濤、(以下協賛)小松の操一平井幸生、高松城一田中鵬水、禪師と正宗一矢吹旭美津、龜山上皇一平井春嶺、若き敦盛一伊藤旭暢、西郷隆盛一竹本旭将、秋風故郷の山一団野旭兜、茶白山一高千穂旭楓、曾我兄弟一太西旭恵、羅生門一西川旭操(順不同)。

「若者の心とらえた楽器」

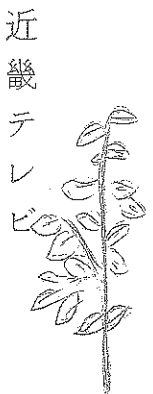


五月十九日附朝日新聞
大阪版「海陸風」から

風変わりなホームコンサートが最近、池田市内で開かれた。琵琶の演奏会である。会場は、ギタリスト青木邦雄さん方の応接間。二、三十歳代の若い男女二十人が詰めかけた。最初に登場した二十五歳の青年は長髪、あごひげに羽織、はかまのいでたち。パチパチ

きも鮮やかに、西郷隆盛にまつわる「城山」を。この青年、浪人中に精神の空白を埋める何かを求めて、この道にはいったという。続いて師匠格ともいえる五十歳代の三人が「白虎隊」を連吟。曲の合間にはこの「お師匠さん」たちに、若者たちから盛んに質問が飛ん

か。どのくらい練習したら弾けますか」「琵琶を弾く人はどのくらいいるのか」。世代の違いを感じさせない打ちとけた空気だった。琵琶が大陸からわが国にはいつたのが奈良朝期。それ以来、ほとんど形を変えていないのがこの楽器の特徴だ。コンサートを主催した青木さんは職業柄、ギターだけでなくピアノ、チェンバロと幅広くこなす。だが、これらの楽器がいまの形になったのはせいぜい二、三百年前のこと。西洋楽器にもう一つ物足りなさを感じた青木さんの心を琵琶がとらえたのは、この楽器が千年余りを生き抜いてきたこと自体の「神秘性」にひかれたためという。青木さん方に集った音楽仲間の青年たちはいま琵琶の現代化を目ざしつつある。まず、モダンジャズに意外によく合う。「即興性」が両者に共通しているそう。フォークソングにもいい。琵琶の響きはバンジョーに似ているし弾きながら詩を吟じるスタイルはフォークの弾き語りそのものである。



近畿テレビ「日本の絃楽」

五月二十三日(日)正午京都の近畿テレビで主記が放映された。まづ大西一敷女史の「絃琴四曲の連奏に始まって森本博子女史の二絃琴演奏、続いて琵琶の部に入り最初に百二十五面の各種琵琶器を所有する田中鵬水氏が琵琶の歴史を説いて盲僧琵琶、平家琵琶、現代琵琶の流派各種数面を会場に陳列した前でそれぞれ解説したあと京都三美会の「千代の寿」を合奏。これは会長矢吹旭美津女史以下若い男性一人女性七人の大絃一と正絃七の大合奏で、奇麗な朱塗りの琵琶と揃いの衣裳で全演奏者の意気がびつたり合って仲々の出来ばえであった。このあと大西善明氏の和楽器の解説に続いて女性六人の十三絃琴の合奏が行われ、前後一時間半に亘って代表的な日本の絃楽を遺憾なく披露し楽しませた。



大和国久米寺奉納諸芸大会
奈良県橿原市の真宗久米寺では五月三日(休)朝十時から宝祚延長祈禱大般若会並びに二十五菩薩供養大会式が華やかに行われ大阪琵琶同好会は之に協賛して琵琶を主に日舞、奇術などが奉納され参詣の善男善女を喜ばせた。楠公菊水の旗一島津社中一同、石童丸一矢野旭信、赤垣源蔵一水谷旭甫、菅公一中山風水井伊大老一養老駿水、神崎与五郎一光旭仙一石橋旭嶺、粟津の露一天津八千代。

故大館洲楓追悼演奏会

五月十八日(火)屋東京渋谷東邦生命ホール、主催洲楓会。一門の外各流派第一流名手達の協賛出演で故師の霊を慰め盛会であった。月下の陣一金子洲文、鶴岡洲船、鈴木洲峰送別一荒川洲城、異国の丘一神戸洲正、吉野落一上梨楓水、白虎隊一中村洲心、加藤洲晃彼ノ矢洲友、さくら花一弘沢雨水、乃木將軍一松本孝水、桜狩一稲垣洲玲、真泉洲佳、俊寛一内山鶴崇、菅公一川本玉水、吹雪の敵一前田洲月、山田洲鳳、松崎洲陵、河内島一荒川洲帆、桑名洲聖、平井洲誠、堅田落一原島旭粧、曾我一小山田賞水、薩調絃一辻靖剛、栗津ヶ原一山元旭錦(録音)、西郷隆盛一故大館洲楓、茨木一山崎旭萃、吉野山懐古一松田静水、朗詠幾山河一雨宮薫風、尺八田中栄堂。

尚当日の感想を平井洲誠氏から左の二種が

京絃社に寄せられた。

供華曲涙あらたに捧ぐ人

洲楓会の決意奏でし

満席へテープ流るゝ大舞台

恩師の写真ほゝえみかゝる

東北琵琶連盟の公演

創立十五周年、瑞宝殿再建、政宗常長顕彰を記念して五月二十二日(土)屋仙台駅前日立ファミリィホールに於て河北新聞、東北放送の後援で開催盛況裡に終始した。特に郷土の英雄伊達政宗演奏の錦びわ二代宗家水藤五郎師は非常な好評で、又吉田錦溪さんの豊かな美声や新作支倉常長の耳新しい感覚、その他全出演者の熱演で成功を治めた。石童丸一阿部吉州、人間親らん一阿部万二、吹雪の敵一小形錦洲、白虎隊一阿部錦仙、本能寺一吉田錦溪、伽羅の兜一野本旭栄、支倉常長一阿部吉州、勿来の関一水藤五郎、菅公一米竹旭栄、宇治川先陣一佐藤礎水、新撰組一南緑水、伊達政宗一水藤五郎。外に詩吟六題。(阿部吉州記)

三位研修同志会五月例会

五月二十三日(日)屋三鷹市上連雀公会堂。門琵琶。秘曲伴流謡切連弾一錦幽、錦道、梅雨の詩一中村晃憲、乃木將軍一山崎錦幽、尼港の風一田戸桜丸、常陸丸一篠宮櫻水、赤星崩れ一伊集院鼓城、滝口恋慕編一坂本錦道

伝統芸能にみる古都再見

五月二十六日(水)夕六時半京都四条烏丸シルクホール、主催日本伝統芸能集団(千二百円)合奏須賀一琵琶矢吹旭美津、一絃琴大西悦子、両女史、琵琶茨木一矢吹旭美津女史、外に仕舞、小唄、箏曲、日舞、尺八が公演された。

若手琵琶人の会第三回演奏会

五月二十九日(土)午後三時東京渋谷東邦生命ホール(千円)。一茶一藤巻旭祐、娘みゆき一初谷旭憲、吉野落一村上旭修、勿来の関一高久穂芳、設楽ヶ原一山下晴楓、伽羅の兜一藤巻旭陽、城山一清川風舟、若き敦盛一藤巻旭彰、川中島懐古一平山万佐子、石田三成一城戸旭濤、耳なし芳一水藤五郎、西郷隆盛一金子旭昭(以下特別出演)俊寛(下)一浅野晴風、衣川一藤巻旭鴻。

邦楽名人会

五月二十九日(土)屋大阪北浜三越劇場(千五百円)。琵琶柴田旭堂女史の「伽羅の兜」の外長唄、地歌、箏曲、小唄、日舞等各一流人の競演で盛会であった。

筑前琵琶紅会公演

五月三十日(日)屋東京日本橋三越劇場、司会NHK鈴木健二アナウンサー。美形揃いの華やかな演奏会でムードを盛り上げ大盛会であった。くれない一会員一同、安宅の関一伴旭友、石井旭良、伏見旭綴、吉野山懐古一旭蓮

竹下翠風作品発表演奏会

五月三十日(日)屋東京杉並区浜田山会館(千円)。松の寿一竹下春玲、大高源吾一歌竹下紫風、絃竹下翠風、茨木一佐藤采水、桔梗の旗上げ一平井洲誠、石童丸一前田秋声。以上琵琶の外短歌舞踊「はらはらと散らふ桜のはかなくて孤独にあればかりがねの声」「中空を裂きて落ちくる大滝の幾段なして煙らひにけり」一朗詠竹下光子、舞踊二人、新作発表「母」一吟詠竹下翠風、尺八、舞踊各一新作春のうた(さくら)一絃翠風、歌春玲外五、舞三、尺八戸室蘭翠。外に詩吟、剣舞、短歌、朗吟、居合道等二十三題。

薩摩琵琶演奏大会

五月三十日(日)屋浜松市立南部公民館、主催鶴彦会、後援市教育委員会外。金剛石一佐野吉野山懐古一早川、桜狩一高林、金州城一村